

# 中部大会速報

11 愛知県 金城学院高校

## 華やかさの影に

### 羨望、嫉妬のその先は

26日、金城学院高校(愛知県)が「Kitsch(キツチュ)」を上演した。女子高校生ならではの感情を巧みに表現し、観客を驚かせた。  
上演後、キャスト、演出の方にインタビューした。

#### 独特の演出

金城学院高校演劇部は、嫉妬という感情を誰にでもあがる感情だとし、誰にもある感情を一人の女の子を使って表現した。また、脚本づくりからすべて部員で話し合っただけで決めたことから、上演に関する想いは非常に強かった。

舞台装置にも独特の工夫を凝らした。鏡となる部分をあえてミラーシートにすることで、観客席を見えないようにした。鏡や階段の道具は、県大会終了後から本番直前まで、長期に渡って作成した。

バレエとチョコを使用することについて脚本家は、女子高生ならではの可愛さを出したいと考えた。

#### キャストの苦労

キャストは何回にもわたって劇中で衣装を変えたため、早着替えのコツを掴まなければいけなかった。そのた

めに着重ねを工夫したり、練習を反復したりするなど、多くの苦労があった。

バレエの衣装はレンタルや購入で賄い、その他の道具や衣装はすべて手づくり。その中でも仮面となる部分にはこだわった。

衣装の他に、髪型にも努力を割いており、セットに5分から10分の時間をかけるな



チョコを上手く利用して感情を表現した。

#### 発行

第68回中部日本高等学校演劇大会生徒実行委員会 広報

2015年

12月26日

#### 作品名

Kitsch



バレエ、チョコ、絵の人物を使って感情を表現。

#### ど、裏方の苦労もあった。こだわりのぬいた演出

嫉妬という感情を高ぶらせていくように、心境を変え、本当に嫉妬しているように見せるため工夫した。さらに、小学生の衣装や小道具にもこだわった。

ブラックチョコレートから主人公が段々と遠ざかっていくことを表現するために、段数を少なくしていた。

また、主人公の口のあたりを白くし、舞台上に出てくるホワイトチョコレートを食べ尽くした末の主人公の姿を示した。

#### 最後に一言

当日、会場へ向かう前に校長先生の車に道具をぶつけてしまうなどのハプニングなどがあったが、皆が協力し、とても楽しい劇となった。よかった。創作ならではの工夫を凝らし、音響・照明も観客に舞台の様子を明確に伝えることができるようにした。

#### 観客の声

女子高生特有の嫉妬の感情を上手く表現していた。(Sさん)  
(担当 齋藤 香村、徐、荻田)